

桜島会がチャリティー講演会

新潟県 中越地震 義援金を寄付

桜島地区の建設業者10社で組織する桜島会(野添正文会長)は25日、鹿

新潟中越地震チャリティー講演会



地震のメカニズムなど説明する原口助教授
＝鹿児島市の国民宿舎レインボー桜島で

を聞き、約60人が参加し、新潟県中越地震と、いまの今後の防災などについて学んだ。

講演会は、10月23日に発生した新潟県中越地震の被害者に少しでも援助できればとの思いから企画、義援金を募り、被災地に寄付するもの。

同日は、大阪市立大学大学院の原口強理学研究所教授が「新潟県中越地震と震害」と題し講演した。講演の1部は新潟の地震はどのような地震だったのか、またどのような被害が発生したのかなどを説明。2部では「そして鹿児島は(自分)は」とし、地震の基礎知識や鹿児島県の地震、今後の地震防

知や鹿児島県の地震、桜島の地震、今後の地震防を向けてどのようなようにしたらよいかなどを解説した。

原口助教授は、新潟県中越地震は直下型の地震で余震が阪神淡路の地震に比べ倍を超えるほど多かったことが特長として、地震の規模もマグニチュード6・8のエネルギーであったことや、余震は信濃川に沿った低地帯の地下には軟弱な堆積層により地震動が増幅されたことが予想でき、余震が多かったことでライフラインの復旧が遅れたことを説明した。豪雪地帯であり来春の雪解け時に地すべりが再活動し、さらに被害が大きくなる可能性を指摘した。

2部では、地震の基礎的なメカニズムや桜島の大正大噴火など、これまで発生した鹿児島県の地震

支部対抗ボウリング

国分・始良支部が優勝



団体の部で優勝した井上さん(右)と逆瀬川さん

強)、地域が救う命(行政が動けるのに3日かかることから、住民による救出が大事)、日頃の訓練が大事であることを分

参加者は日向灘と桜島の地震は関係あるのか、桜島で発生する地震は火山性地震などかなど、活発な意見が交わされた。

支部対抗ボウリング大会を開き、各支部から約60人が参加、熱戦を繰り広げた結果、団体では2年

連続で国分・始良支部Bチーム、個人では始良支部の井上雄嗣さんが見事優勝した。

大会では、米盛部会長が開会の挨拶を行い、昨

栗野、吉松町廃置分合(合併)

湧水町「新町の誕生へ」

栗野、吉松の2町は27日、廃置分合(合併)決定書の交付を伊藤祐一郎県知事から受けた。これで17年3月22日に「湧水町」として新たな町の誕生となる。

決定書の交付では、伊藤知事が「12月の県議会



伊藤知事から交付を受ける関係者＝鹿児島市の県庁

目指すは、スーパーコンストラクションワーカー

湯田 誠さん



会社に入ってから5年。現在、わが社前の現場に携わっていますが、夜間作業ということもあって、現場の安全管理はもとより、自身の



と夜が逆転した生活を送っていると、夜間作業の大変さと、通常

万3237人(12年国政調査)となる。庁舎位置は現在の栗野町庁舎で、地域審議会も設置する。新町の将来像として「人

と自然が織りなす芸術のまち、心豊かで伸びゆく美しいまち」を掲げている。また、①誰もが元気で暮らせる人にやさし

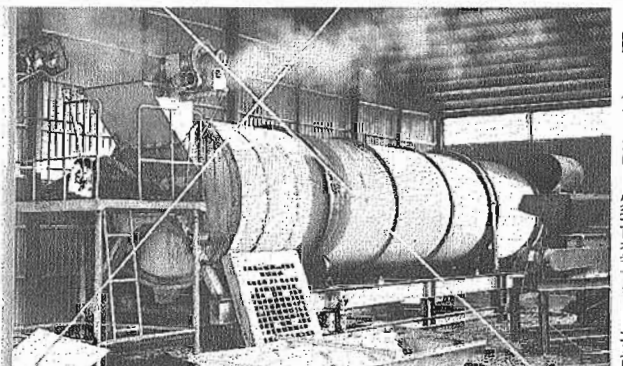
根占、佐多町廃置分合(合併)

「南大隅町」もスタートへ

根占町と佐多町は27日、鹿児島市の鹿児島県庁を訪れ、新町「南大隅町」の廃置分合(合併)決定書の交付を伊藤祐一郎知事から受けた。これで17年3月31日に南大隅町がスタートすることになる。決定書の交付では、伊藤知事が「本日付けで南大隅町としての決定を受けたわけですが、新たな町として躍進に期待する」と述べ、決定書を交付した。南大隅町は人口約1万7411人(平成12年国政調査)、面積約213・59平方キロとなる。本庁舎は現在の根占町役場に置き、地域審議会は設置しない。新町の将来像として「雄大な自然を活かした心の豊かさを求め新たな発展をめざす。まち」を掲げている。また、①地域らしさを活かしたまちづくり②社会に貢献で

富士エコロジー 高速発酵脱臭装置 焼酎廃液処理に救世主

システムが開発され話題を呼んでいる。富士エコロジー(株)は、この発酵処理の初期課程にとつても発生するアンモニア臭、イオウ臭等を解決し、完熟堆肥化への発酵期間を調整できる「高速発酵脱臭装置」＝写真＝を開発した。



従来、焼酎廃液の処理は、田畑への散布や海洋投棄、焼酎メーカーにおいては、固液分離による浄化処理やメタン発酵システムなど、さまざまなシステムが採用されてきた。しかし、近年の環境問題、コスト面や処理に長時間かかるなど、課題も多い状況である。同システムは、家畜糞

に焼酎廃液を繰り返し散布し、発酵処理する方法で、アミノ酸や酵素を多量に含む良質の堆肥ができ、畜産や園芸農家に喜ばれることになる。焼酎業界にとつても、自社処理設備を設ける必要もなくなり、処理後の排出物の処理に悩まなくて済み、処理業者にとつても、従来より大幅に少ない投資で済み、さらにランニングコストもあまりかから

新たな町として躍進を期待し交付する伊藤知事＝鹿児島市の県庁